



経済教育ネットワーク

Network for Economic Education



## 大阪部会(第 71 回)

日時: 2020年 10月 3日(土) 15:00 - 17:20

場所: ネット会議

参加者: 篠原総一代表を含め19名

### 【内容要旨】

1. まず小巻泰之氏(大阪経済大学)から「Social Distancingの効果:経済面への影響」と題する報告があった。都市のロックダウン、学校の閉鎖、マスク着用の強制などのNPI(公衆衛生対策)がどの程度有効で、経済にどんな影響を与えたのかを検証しようとした研究論文である。内容は、現状と課題の整理、先行研究の紹介から始まり、1918年スペイン風邪との比較をした後、Social Distance などNPIの影響をみるためのデータ分析に進み、最後に今後の経済の行方についても触れられた。多数の分析結果から一部だけ紹介すると、NPIのうち外出自粛要請による外出の減少は全国的に確認でき、特に東京や大阪で顕著であった点や、NPIによって対面コミュニケーションへの依存度の高い消費が大きく減少し、特に文化的な消費(映画、演劇鑑賞など)がほとんどゼロになった点などが検出された。また今後の経済については、低インフレと緩やかな失業率上昇というスタグフレーションの可能性が指摘された。

参加者から、スタグフレーションの理由、10万円給付や go to 政策の効果、財政支出拡大の影響などについての質問があった後、篠原代表からはこのような分析をいかに教室での授業に活かせるかという問題提起があった。小巻氏の報告で示された図(NPIが経済に与える影響として様々なルートが考えられることを示した図)の中から、どこに注目して何を授業のとっかかりにするかが重要であり、河原和之氏(立命館大学他)から略年表の活用などのアイデアが示された。

2. 次に安野雄一氏(大阪市立東三国小学校)から「価値判断・意思決定力を育む社会科×総合学習～まちで働く人々と経済を結びつけて考える一方略～」と題する実践報告があった。総合学習の時間を使った22回にわたる授業であり、地元商店街のパン屋とケーキ屋の協力を得て、生徒達が商品開発をする過程を通じて学習を深めていく構成になっている。特に、(1)現状把握・情報整理、(2)想像・思考(3)創造(4)評価をスパイラル的に繰り返すことで、生徒達の価値判断・意思決定のレベルの向上が目指されていることが特徴的である。また、毎回のポートフォリオ評価(自己評価)だけでなく、他者評価(外部評価)も加えることで、様々な視点から考えられるように工夫されている。参加者からはこの実践に対する高い評価が示された後、知識や能力が違う生徒達のグループ分けの仕方や、食品を題材に選ぶことの問題点などについて議論があった。

3. 李洪俊氏(大阪市立大和川中学校)からは、ここ数年間継続されている全国公立高校入試問題の分析結果が示された。特に2020年度については、学習指導要領の「学びに向かう力・人間性等」に注目し、それを授業でどう養うのか、それをどう評価するのかという問題意識をもちながら、入試問題が分析されている。入試問題にもそのような観点が入り込んでいるのか、入試問題をどう授業に活かせるかについても言及された。報告では、「学びに向かう力・人間性等」をテストで評価することの難しさや問題点を整理した後、いくつかの県の試験問題が紹介・解説された。今年度も、資料や文章を読み取らせる問題、比較的長い文章の解答が求められる問題の増加が指摘された。



経済教育ネットワーク  
Network for Economic Education



今回は、丹松美代志氏(大阪学びの会代表)からも「新学習指導要領における三観点の評価のあり方を探る～国研資料を基に～」という資料が提出されていたが、報告は次回に回されることになった。

最後に、中沖栄氏(清水書院)から「証券普及プロジェクトの学校向け教材～体験して学ぼう！金融・経済・起業～」の紹介と、協力依頼があった。

(文責:野間敏克)

✓テスト問題 (新テストなど)	✓中学 ✓小学	高校	✓指導案	新聞教材(NIE)
--------------------	---------	----	------	-----------

次回開催予定: 12月5日(土) 15:00～17:00、ネット会議

議題:教材の報告、情報交換